

平素は工業会の活動にご理解とご協力賜り誠にありがとうございます。

日中かなり過ごしやすい気候となって参りました。しかしながら朝晩は冷え込む日もあり、皆様体調管理には十分お気を付け願います。

さて11月号では第6回安全大会・第10回技術品質勉強会の開催報告、欧州レポート、昨今の電力事情、今年度の新入会員のご紹介をさせていただきます。

《第6回安全大会・第10回技術品質勉強会》

10月20日(木)13:30～フクラシア品川にて、第6回安全大会・第10回技術品質勉強会が開催されました。当日は現地参加者51名、WEB参加者55名の参加を賜りました。

伊地知安全衛生委員会副委員長の司会進行にて、三輪会長の開会挨拶に続き、以下の取り組み事例の報告等進んで参りました。



第1部：安全衛生委員会 第6回安全大会

綾仁安全衛生委員長の挨拶、趣旨説明



① 安全衛生の取組紹介

発表事例：日本ウエスト株式会社 田中副委員長



② 安全パトロール実施報告

実施場所：西部サービス株式会社 神戸工場

発表者：安達副委員長



実施場所：株式会社オガワエコノス 仙台工場

発表者：中田副委員長



③ 講演

演題：廃棄物処理法に関する義務

講演者：環境省 環境再生・資源循環局 廃棄物規制課 法令係 昌子 真名 様



第2部 技術品質委員会 第10回勉強会
見澤技術品質委員長の挨拶、趣旨説明



① 講演

演 題：プラスチック資源循環について

講演者：日本プラスチック工業連盟 専務理事 加藤 英仁 様



② 講演

演 題：RPF 製造ラインにおける最新選別技術

講演者：株式会社リョーシン 取締役副社長 高野 晃 様



《欧州レポート》

当委員会副委員長の株式会社フジテックス 環境事業部 角田氏が欧州出張された際、現状の欧州事情をまとめていただきました。



欧州のエネルギー不足と SRF（フラフ燃料）近況レポート

◆ 廃棄物発生量は減少傾向、エネルギー不足への対応急務

激動する経済状況や紛争の影響により、今冬のエネルギー不足は欧州全域で非常に懸念されています。廃棄物発生量も減少傾向にあり、物流網の機能も万全ではありません。そのような状況下、通常閑散期となる夏から秋にかけて、今年は各企業 SRF、RDF の在庫確保に大忙しです。ある大手廃棄物処理会社は、廃棄物取扱量が 75% 増加したと発表しています。冒頭に記載したエネルギー不足を懸念し、備蓄に動いていると明確に発言しています。中期でみると、ドイツは工場建設計画が多く予定されており、3 年度には廃棄物処理量が 100 万トン増加すると試算されており、これらも SRF や RDF への利用が予測され、益々廃棄物燃料の製造が盛んになっていきます。

◆ 日本国内でのフラフ燃料需要 欧州との違い

日本国内のセメント業界における燃料代替率は、欧州と比べ約半分の 30~40%。しかし、石炭の価格高騰および、CO2 排出量削減に向け代替燃料の需要が急増しているのは周知の通りです。参考までに、フラフは日本では塩素ガス発生抑制のために PVC は燃料製造時に除去されますが、欧州では炉に塩素バイパスを備えており、高塩素濃度のまま燃料として利用されます。

◆ 25 トン／時超、欧州のフラフ製造現場視察

弊社が提携した破砕機メーカーのアテンドで、欧州のフラフ製造現場を視察してきました。年間処理量 150,000 トン、1 時間あたり約 25 トンの処理を行う大規模施設では、回収した廃棄物を①解体系②事業系・粗大ごみ③家庭ごみに分別します。SRF 製造ラインは週に 5 日、24 時間稼働させており、投入オペレーターとコントロールルームにいる 2 名で作業しています。処理フローとしては、油圧二軸破砕機で粗粉碎し、選別工程へコンベアで搬送後、粒度選別を行われ、それぞれ磁選機と非鉄選別機を通過します。その後光学選別機で高カロリーのプラスチックとそれ以外に精選別されます。また、新たな技術である中赤外線センサーを搭載した選別機も組み込まれており、黒色でも材質検出できる最新装置も搭載されていました。カロリーで種選別を行うのは、フラフ燃料の納入先が異なるからであり、適切な処理費で引き取ってもらうためです。フラフ燃料は製造後も処理費を支払い引き渡すようですが、廃棄物受け入れ時の処分費と有価物の回収で十分利益に繋がっている、とコメントいただきました。（寄稿：(株)フジテックス 環境事業部）





《昨今の電力事情》

（１） R P F 製造コストとしての電力料金の高騰

破砕機や成形機は電力を大量に消費しますのでR P F の製造現場では基本料金を節約する為にデマンドコントロールを徹底したり単価の安い新電力を探したり、皆さま工夫を凝らして来られたと思います。しかし、このところの料金急騰には有効な打ち手が無くご苦労されていると思います。東京電力の場合、標準価格が最近で一番安かった 2021 年 1 月の

（従量料金）15.15＋（燃料調整費）▲4.95＋（再エネ賦課金）3.36＝（請求）13.56 円/kwh

に比べ足元の 2022 年 11 月は

（従量料金）15.15＋（燃料調整費）9.26＋（再エネ賦課金）3.45＝（請求）27.56 円/kwh

と約 2 倍に跳ね上がっています。足元円安が進み燃料調整費は更なる値上げが見込まれます。

加えて東京電力始め各社とも来年の 4 月から価格体系の見直しを含めた更なる値上げ発表をしており心配の種は尽きません。

（２） 電力料金の急騰の理由

石炭の輸入通関統計価格は 2020 年 9 月の 8,624 円/t から 2022 年 7 月には 52,400 円/t へと約 6 倍の価格になっています。東日本大震災後は石炭火力発電所が主力の電源な為、“石炭の急騰”が“燃料調整費の急騰”に繋がってR P F 製造コストに直結した形です。

（３） 電力の使い方が変わる？

太陽光など不安定な再エネの普及に伴い、電力各社は日没後など電力需給が逼迫する時間帯に節電協力する事で値引きを受けられるメニューをリリースし始めています。コスト削減の為に今までに無かった工場運営の工夫を求められるのかもしれません。

《新入会員紹介》

今年度新たに入会頂きました企業をご紹介します。

5月1日入会 株式会社西日本アチューマツトクリーン（正会員）

10月1日入会 藤クリーン株式会社（正会員）

11月1日入会 株式会社アバンセ保険事務所（賛助会員）

11月1日入会 株式会社勝利商會（正会員）

11月1日入会 株式会社上野（正会員）

《今後の勉強会等案内》

1. 青年部会発足会および勉強会

令和4年11月17日（木）に青年部会の発足会・勉強会が開催されます。

新たな若いメンバーが集結し、今後の工業会の発展に寄与することを期待いたします。

2. 用途開発委員会工場見学会

令和4年11月28日（月）に昭和電工株式会社への工場見学会を実施いたします。

ケミカルリサイクルの現状と今後の可能性についての視察となります。

【編集後記】

昨今の資源高騰の影響を受け、RPFの需要がかなり高まってきております。工業会としましても環境省に対し、RPF製造に関する助成金の要望であったり、新規許可等に対して時間を要しない形で許可を取得できる様、働きかけをしております。

また外国人技能実習生に関しましても10社、41名の来日が決定しており、来年1月には初級試験が開催されます。近い将来、母国での環境改善に繋がり、RPF製造から利用に至るまでのスキームができることを期待しております。

会員も少しずつ増加し、RPF製造に関して様々な業種の方に入会いただいております。

今後も会員の皆様に有益な情報が提供できるよう、全方面にアンテナを張って参ります。

新たな会員増強も踏まえ、会員の皆様のご理解、ご協力を賜ります。

何卒宜しくお願い申し上げます。

（文責；総務広報委員長 加山順一郎）

編集制作：総務広報委員会発行：一般社団法人日本RPF工業会

令和4年11月吉日

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町1-9-2 高梨ビル5階

TEL:03-6206-8000

FAX:03-5296-0303

<http://www.jrpf.gr.jp>